

令和5年度 第1回 栄養部会研修会レポート

記録者: ケアホーム山口
管理栄養士 上田 南

日時 令和5年 12月12日 火曜日 10:00 ~ 15:00

会場 山口県セミナーパーク 一般研修室201

研修内容

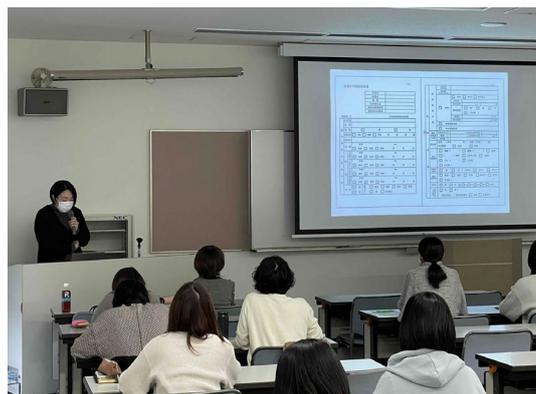
講演1 10:00 ~ 11:00

「岩国健康福祉センター管内における栄養ケア情報提供の取組について」

岩国健康福祉センター 主任 原田 理恵 様

岩国市では栄養ケアの情報提供に使える共通の様式、「栄養ケア情報提供書」が存在する。この様式は、健康福祉センターに岩国管内の病院管理栄養士から、栄養サマリーの様式が欲しいと相談を受けたことで原田理恵氏を筆頭に作成されたものだ。今回の講演ではこの栄養ケア情報提供書を制作するにあたっての経緯と、活用実績をお話しされた。

これまで、施設間での入退所において、食事内容の伝達は看護サマリーに記載されているものがほとんどであった。しかし、最新の情報であるのか、管理栄養士が記録しているのかは不明であり、それまで食べていた食事の内容や状況等の詳細が次の施設に伝わらないことが多かった。この背景から、岩国管内の病院、介護老人保健施設等計11名の管理栄養士が検討会の立ち上げを行い、様式の見直しやモデル運用を経て、平成29年度に実際の運用が開始された。また、情報提供書の様式検討を行う中で、「食形態マップ」の作成にも取り組んだ。各施設で提供している食事形態と、自施設で提供している食事形態との見比べが容易となり、様々な場面で活用されている。今後も栄養ケア情報提供書や食形態マップなどを活用し、栄養士同士のつながりを強化なものにすることで、より良い食事提供、栄養管理に励みたい。



細が次の施設に伝わらないことが多かった。この背景から、岩国管内の病院、介護老人保健施設等計11名の管理栄養士が検討会の立ち上げを行い、様式の見直しやモデル運用を経て、平成29年度に実際の運用が開始された。また、情報提供書の様式検討を行う中で、「食形態マップ」の作成にも取り組んだ。各施設で提供している食事形態と、自施設で提供している食事形態との見比べが容易となり、様々な場面で活用されている。今後も栄養ケア情報提供書や食形態マップなどを活用し、栄養士同士のつながりを強化なものにすることで、より良い食事提供、栄養管理に励みたい。

講演2 13:00 ~ 14:00

「腸内細菌叢で排便コントロール」

株式会社 クリニコ 吉田 佳歩 様 田之上 瑠涼 様

腸内を占める善玉菌(主にビフィズス菌)の割合は、加齢とともに減少していく。善玉菌の減少は腸管バリア機能の低下へとつながり、感染や下痢のリスクの可能性を高める。そのため、腸内細菌の悪化や腸管バリア機能の低下を防ぐことが老健入所者の栄養状態の維持・向上へとつながる。

株式会社クリニコでは、生きたまま大腸に届く、ヒト由来ビフィズス菌が配合された「ビフィズス菌 BB536」を販売している。ビフィズス菌 BB536では整腸作用のほかに、感染防御作用や抗アレルギー作用など多くの整理機能が報告されている。そのほか、下痢や便秘など腸内環境の悪化のメカニズムや、その改善に向けた株式会社クリニコの製品を研究報告とともにお話しされた。栄養士として利用者様が快適な生活を送れるよう食事の面からサポートしていきたい。

